

子どもは親と別人格 126



最近親による子どもへの虐待が多くなってきました。逆に、子どもから親への傷害事件もあります。どうしてこのようなことが、起こるのでしょうか。子どもが生まれて、幸せいっぱいのはずの家族が、どうして不幸になるのでしょうか。

それは、親が、子どもを自分の思い通りになると、思い込んでいるからだと思います。それで、自分の思い通りにならない子どもに対して、腹を立て、虐待をするのです。子どもは、親への反発として、傷害事件を起こすのではないのでしょうか。

子どもは、親の所有物では、ありません。親の思い通りにはならないのが、当たり前なのです。子どもと言っても、親とは別人格なのです。

どのように子どもと接すればいいのでしょうか。

- ☆ 自由にやりたいことをやらせる。
- ☆ 口出し、手出しをできるだけ控える。
- ☆ 時間を十分与え、事を急がない。
- ☆ ゆったりと構え、子どもの挑戦・失敗を応援する。
- ☆ 子どもの未来(進学・就職など)は、子どもに決めさせる。
- ☆ 成績を気にしたり、他の兄弟と比べたりしない。

子どもは、親の言うことは、なかなか聞かないものです。しかし、**日頃の親の言動は、よく知っています。子どもは、親の後ろ姿を見て、育つのです。**

子どもの将来を心配する必要は、全くありません。安心して下さい。子どもは、必ずりっぱに育っていきます。子どもの成長のためにも、親が気負いすぎず、心をリラックスして、楽しく子どもと関わっていきましょう。日常の家族の笑顔があれば、大丈夫です。



子育ては優しい言葉で 248



子どもは、大人になり親と似てきます。
顔や体つきだけでなく、考え方や人間性なども似てきます。

それは、親が子どもに対して、子育てにおいて、大きな影響力があるからです。
子どもは、親の言葉に強く影響を受け、言葉通りに育ちます。

子育ては、どのような言葉を、子どもに語りかけると、いいのでしょうか。

- こんなことをしたらダメです。親の言うとおりにしなさい。
- こんなことができないの。困った子ね。
- このくらい我慢しなさい。怒るわよ。
- まったくダメな子どもだから。
- わがままだから、嫌だわ。
- 喧嘩するなんて、みんなから嫌われて当たり前だわ。

このような言葉は、子どもを否定し、落ち込ませて、心に傷つけてしまいます。
自分のことを、嫌いになってしまいます。

このような言葉を、日常的に浴びせ続けられた子どもは、大人になって、人を信頼できない、自立心のない、心が折れやすい、やる気のない人になってしまいます。
今社会で問題を起こしている大人は、このような言葉で育った人が、多いのです。

子育ては、優しい言葉で、語りかけましょう。

- ☆ 大丈夫、心配しないでいいよ。
- ☆ 自分のやりたいこと、楽しいことをやっていいよ。
- ☆ どんなことがあろうと、いつも応援しているよ。
- ☆ あなたのことを、信じているからね。
- ☆ みんなあなたのことを、大好きだよ。
- ☆ あなたなら必ずできるよ。焦らなくていいよ。

このような言葉で、育てられた子どもは、大人になって、人を信頼できる、自立心のある、心が強い、意欲的な人になります。
今社会で活躍している大人は、優しい言葉で育った人が、多いのです。

親は、子どもと一生をともにします。
ぜひ子育てにおける優しい言葉の大切さを理解し、適切な場面で、生かしていただければ、ありがたいです。

子どもに自分で判断させよう 295



しっかりと自分の人生を、歩いている人がいます。
自分で自分の人生を歩くためには、とても大切なことがあります。
それは、つねに自分で的確な判断をすることです。
日常生活や仕事などにおいては、日々判断の連続です。

- 誰にこの仕事を任せたらいいか。
- 次の仕事をいつから始めたらいいか。
- 子ども達をどこの保育園に預けたらいいか。
- 今日の料理は、どんな料理を作るとみんなが喜ぶか。
- 地震が起こった時、どこに逃げるのが一番安全か。

いろいろな判断を自信と責任を持ち、的確に判断することが、生きる大きな力となります。
的確な判断ができる人の多くが、子どもの時の育ちにあるように感じます。

子どもの時から、自分で判断して生きよう環境や親の教育があるのです。
自分で考え、判断し、行動する経験を数多くしてきているのです。

- ☆ 何がしたいか、言ってごらん。
- ☆ 自分で思ったとおり、やっていいよ。
- ☆ 自分の考えで、自分の進むべき道を決めなさい。
- ☆ あなたが決めたことを応援するよ。
- ☆ 自分で決めたことは、最後までやり通しなさい。

親はこのような言葉で、励ましながら、子どもが自分で自由に判断できる場や環境を与えているのです。
子どもの時の自分で自由に判断する経験が、大人になって、的確な判断の基礎となっています。

逆に、親が子どもに判断させず、親の判断を子どもに押しつけて育てると、子どもは判断できない大人になってしまいます。
子どもは、親から判断を押しつけられたことに反発します。
自分で判断するのが怖くて、人に頼ってしまいます。
判断しても、誤った判断をすることが多いのです。

子どもに、自分で判断させましょう。
自分で判断し、行動できる喜びを感じさせましょう。
それが大人になってからの自立となります。



子どもへの力での指導を止めよう 559



子どもは、大人より体が小さく弱い立場にあります。
子どもは、大人になる前の成長を続けています。
まだまだ心も体も十分ではありません。
子どもは、じっと座って話が聞けなかったり、チャイムの合図が守れなかったり、宿題をしてるのを忘れてたりなどします。
友だちとケンカしたり、意地悪したり、ウソをついたり、いじめをしたりなど、やってはいけないことをしたりします。
それが子どもなのです。
大人は、その子どもたちを温かく長い目で、教え育てていかなければなりません。

ここで、熊本日日新聞の「相談室より」の一部を紹介します。

小学校四年生の男の子。
これまでは「学校は楽しい」と言って朝早くから元気に楽しく登校していた。
ところが、今の担任になってから朝になると「頭が痛い。お腹が痛い。学校に行きたくない」と言い出した。
近所の病院で診てもらったが、原因が分からなかった。
そのうち、とうとう発熱するようにもなった。
家族も心配して大きな病院で検査してもらったが、原因はつかめなかった。
登校を渋り始めて数ヶ月たって、ようやく「担任から体罰を受けている」と話した。
担任は大声で叱り、たたき、蹴るなどの体罰をしているという。
同級生の親の中には、うちの子はおとなしいので体罰を受けることはないが、ほかの子がされるのを見てショックを受けており「学校が怖い」と言い、登校を渋ることもあるという。

この事例は、先生の体罰の事例です。
先生は、子どもたちを短期間で、自分の思うとおりにしたいのです。
思うとおりにできない子どもには、叱ったり、たたいたり、蹴るなどの体罰を加えるのです。
まさに子どもに対して、大人の力で、指導をするのです。
子どもにとっては、怖くてならないでしょう。
そのような力づくでの指導は、明らかに誤りです。
すぐにでも止めるべきなのです。
今の多くの先生たちは、体罰による指導をしていません。
子どもに対して、温かい心を持って、優しく指導をしています。

これは、先生だけではありません。
親も自分の子どもに、力で指導する場合があります。
大人も弱い人に対して、力で指導する場合があります。

**力での指導で、指導が上手くいくことは、決してありません。
指導は、その子やその人に応じた優しい言葉が、有効なのです。**

子どもにスキンシップをしよう 585



子どもが大人になった時に、親に対する愛情が深いのは、何故でしょう。いろいろな要因がありますが、重要な要因として、親の子どもに対するスキンシップがあります。どれだけ親が、小さい子どもに対して、日頃からスキンシップをしていたかが、とても愛情には重要なのです。

例えば、「愛しているよ」と 100 回言うよりも、ぎゅっと 1 回抱きしめてあげるほうが、何倍も効果的です。

赤ちゃんや幼児には言葉の意味は、よくわかりません。

でも、抱きしめられたときの温もりは、体の感覚として理解でき、心が安らぐのです。

こんなネズミの実験がありました。

生まれてすぐ親と離れたネズミと、親と一緒に育てたネズミを比べました。

親と離れたネズミは、ストレスに弱く、すぐ具合が悪くなりました。

親と一緒に育てたネズミは、親がペロペロ、ペロペロとしょうちゅう子どもをなめていて、子どもは逞しく、元気に育ちました。

生物のなかでも哺乳類はスキンシップが多いのが特徴です。

生後間もない赤ちゃんを舌で舐めるのは、全身に刺激を与えます。

その毛づくろいは、コミュニケーションの手段とも言われます。

私たち人間も抱っこすることで、赤ちゃんの心を安定させたり、脳の発達を促しています。

スキンシップは、子どもの心身の発達に大きな意味と役割を持つことが知られています。

スキンシップに関して、ここ 10 年ほどで特に注目されているのがオキシトシンという脳内物質です。

「愛情ホルモン」とも呼ばれる物質で、リラックスした気持ちで肌を触れ合うことにより、双方の脳内に分泌します。

たとえば親子なら愛着関係を深めるとともに、それぞれにも嬉しい効果があるとわかってきたのです。

母親は、子どもをぎゅっと抱きしめたり、寝る前になでてあげるなど安らぎのスキンシップが効果的です。

父親にすすめたいのは、体遊びを兼ねたスキンシップです。

子どもの年齢に合わせて、肩ぐるまやお馬さんごっこなどはいかがでしょう。

私も時々孫を抱っこしたり、頭をなでたり、抱きしめたりなど、できるだけスキンシップをしています。

孫のためとはいえ、私自身も童心に戻り、楽しんで触れ合っています。

母親のスキンシップは、子どもの情緒を安定させ、父親が行うと社会性の高い子に育ちやすいという傾向もみられます。

やはり子育てには、両親の役割分担があるようです。

仕事などで忙しくて、子どもは保育園に任せている親も多くなってきました。

子どもと親のお互いの愛情は、スキンシップで深まるのです。

子どもが大人になるにつれて、スキンシップの機会は、少なくなります。

子どもと一緒に遊んで、楽しいひとときを過ごしなが、積極的にスキンシップをしていきましょう。

それが親としての喜びにもなるのです。

子どもを1日1回ほめよう 721



親は、子どもの成長が楽しみです。
子どもの成長とともに、親も多くのことを学び、成長していきます。

子どもが幼い頃や小学校の時は、親子で楽しく話したり、遊んだりします。
子どもが中学校、高等学校、大学となれば、親子での会話やいっしょに遊んだりすることが少なくなってきます。
これは、子どもが親から自立している証であり、喜ばしいことでもあります。

しかし、子どもの自立とともに、注意しなければならないことがあります。
それは、親子の会話が少なくなり、気がつけば、しだいに親子で批判的なことを言い合うようになることです。

そうなれば親と子で心の壁ができ、家庭も暗くなってしまいます。
愛で満ちあふれるはずの家庭が、愛を感じられない家庭になってしまいます。

そうならないようにするには、どうしたらいいのでしょうか。
それは、大人が子どもの姿や様子から、子どもの良さを見つけ出し、声に出して子どもをほめることだと思います。
親は子どもが幼い頃は、よくほめますが、成長するにつれて、ほめなくなってしまいます。

どんなことでもいいのです。
子どものことで気がついたことを1日1回は、ほめるようにしましょう。

- ☆朝から元気だね。
- ☆学校で友だちとよく遊んでいるね。
- ☆今日は学校の準備を、自分でできたね。
- ☆「ただいま帰りました」の音が大きいね。
- ☆笑顔がいいね。
- ☆何でも進んでするのが、すごいよ。
- ☆今日は1日家で、楽しく過ごせたね。
- ☆お手伝い、頑張ったね。

このようにちょっとしたことで、いいのです。
気軽に素直に子どもをほめ、子どもの成長を喜びましょう。

ほめ続けることで、子どもは親の愛を強く感じるのです。
親もまた子どもからの愛を、感じるのです。
親が子どもを1日1回ほめることで、愛に溢れた家庭にしていきましょう。

悪いことをしたら叱ろう 882



人に対して、優しくすること、許すことは、大切なことです。
しかし、このことは、人に対して、甘やかすことになります。

時には人に対して、厳しく接することも、本当の意味での、優しさや思いやりなのです。
人が悪いことをした時には、しっかりと叱ることも、大切なことなのです。

ここで、イソップ物語の「盗みをした子どもと母親」を、紹介します。

あるとき、1人の子どもが、おもちゃを盗んで、家に帰ってきました。
母親は、子どもを叱るどころか、ほめたので、子どもはそれをいいことに、いろいろな盗みを働き、やがて札つきの大泥棒に、なりました。

だがついに捕まり、裁判の結果人民広場で、死刑が宣告されました。
駆けつけた母親が、「なんでこんな子どもに」と、嘆いた声を聞いて、息子は母を呼び、いきなり母親の耳たぶをかじり、かみ切りました。

息子は、いいました。

「私が初めて、おもちゃを盗んだとき、なぜ、あなたは、叱ってくれなかったんだ。あのとき、叱ってくれたら、私はこんな人間に、ならなかった」と、ハラハラと涙を流した、といます。

この話は、悪いことをしたことに對して、甘やかすのではなく、しっかりと叱ることの大切さを、教えています。

母親が、しっかりと叱り、盗みはいけないことを、教えていたら、こんなことは、起こらなかったのです。

人は、誰でも時々善悪の判断が、つかないときがあります。

- ☆人の物を、許可なく借りた。
- ☆お金が欲しいので、人から欺し取った。
- ☆与えられた仕事を、してないのに、終わったと、ウソをついた。
- ☆弱い人を、いじめた。
- ☆勝手に人のメールを、見た。

このようなことなど、悪いことをしたら、叱りましょう。
人は、叱られることで、悪いことだと、認識できるのです。
悪いことをしたことに、反省し、心を入れかえることも、できるのです。

叱ることは、人を育てることなのです。
人に対する、優しさなのです。